

**丹後活動プラン（中間案）に対しての府民の方から頂いた意見
の要旨とこれに対する京都府丹後広域振興局の考え方**

分野	意見の要旨	京都府丹後広域振興局の考え方
全 般	<p>活動の柱となる項目について、どのように具体化していくのか期待している。「地域で活動を広げていく条件」として活動団体に助成金制度を設けてほしい。京丹後市が現在次世代育成支援行動計画を策定しているが、各市町の活動方針とも有機的なつながりのあるプラン策定を期待する。</p>	<p>活動団体や市町との連携は大変重要なことであり、ご意見に留意して、地域づくりを進めていきたいと考えています。</p>
	<p>このニュースは良いことをしていると思っておられると思うが、内容は全くない。これに府税を使うことには反対。同じやるならもっと具体的な案を示すべき。例えば、あじわいの郷は開店休業状態で、来たお客さんは帰り、丹後の印象を落としている。こういうことを一つ一つ改善していくことが大切。私なら、これらを解決してみせる。</p>	<p>このプランは、具体的な取組の基礎となる丹後に関わる主要な分野の今後の活動方策を提示しているものです。ご意見には留意してまいります。 ご提案は、今後の参考にいたします。また、プランの巻末の「アイデア集」に収録し、地域の皆さんに紹介させていただきます。</p>
	<p>方策が全て抽象的で、日本のどこでも通用するお題目を並べた感じがして、10年後も何の変化もなく実現化せず、プラン倒れは必至。もっと具体的で大胆に、例えば、病院は現在の古い2つのものを1つにして、「あじわいの郷」の所につくり、森林セラピー、絵画セラピーも考えたものにするとか、竹野川沿いにモミジ街道30kmをつくる、丹後の山にケヤキブナ100万本植林（治山・治水のため）するなど。また、グリーンツーリズムや北近畿タンゴ鉄道に自転車も一緒に乗れるようにすることなども面白いと思う。浜詰海岸への1億円は無駄使い。</p>	
	<p>今の高校生は、このプランやニュースには、ほとんど関心がないと思う。大人だけでプランを考えるのではなく、未来を生きる次の世代がもっと考える場を作らないといけないと思う。自然を大事にと言いながら大人は片方では乱開発もしている。学校や教育の場でこういうことを考える場をつくってほしい。地域づくりは「人づくり」が一番だと思う。もう一度最初から考え直してほしい。「子供達が今、自分のいる地域に何を感じているのか、それとも何も感じてないのか」を。</p>	<p>ご意見に留意して、地域づくりを進めてまいります。なお、このプラン作成にあたっての集中ディスカッションでは、2名の高校生に参加していただきました。</p>
	<p>地域の活性化のためには、観光面で人寄せをするのも良いが、地元の人が何度も足を運んだり、小さな地域で地元の人が集まれることも考えなければと思う。また、いろいろな分野で後継者問題があるが、将来を担う子供達をどう地域で育てていくのか、子供達の活動の場をどう作るかなど、人づくり・教育のことも考える必要があると思う。</p>	
<p>総合的には良くまとめてあり、今後意見を踏まえ、充実いただければ良いプランになるものと期待する。全体としてもう少し具体的な踏み込みがほしいと思う。</p>		

<p>地域振興</p>	<p>教育の分野も部局を越えて、プランにも加えれば、全体の関心が高まる。 米づくりを実働組織化と品質の両面からサポートするとともに国営開発農地の営農を多面的に推進する。 丹後あじわいの郷を農林にこだわらず青少年海洋センターともども、教育の場に活用するとともに京都市教育委員会にも働きかける。 道路パトを廃止し市町との通報システムを構築する。 織物・機械金属振興センターの加悦谷分室は地元で払い下げる。</p>	<p>このプランは、具体的な取組の基礎となる丹後に関わる主要な分野の今後の活動方策を提示しているものです。ご意見には留意して地域づくりを進めてまいります。 ご提案は、今後の参考にいたします。また、プランの巻末の「アイデア集」に収録し、地域の皆さんに紹介させていただきます。</p>
	<p>プランナーの募集を実施する。 推進プロジェクトチームを有志、ボランティアなどで組成する。 メディア対策〔・テレビ、新聞への話題づくり・映画、小説の製作・フェスティバル(歌謡祭)〕を行う。</p>	<p>ご提案は、今後の参考にいたします。また、プランの巻末の「アイデア集」に収録し、地域の皆さんに紹介させていただきます。</p>
	<p>丹後地域の「食文化の見直し・復活再生化」の項目の追加を提案する。きれいでおいしい丹後の水を強調したい。丹後は、長寿の人が多いが、長寿の食生活に結びつく要因の最大のものの1つは「水」である。その生産物としての「豆腐」は100才食で、黒豆の消費拡大としても有効である。奥山地区の「清水」(久美浜)、切畑地区の水(網野)、尉ヶ畑地区の「長寿の水」(久美浜)など他にも丹後全域に隠れた銘水が多い。丹後の「清酒」も、この水があるからおいしい。</p>	
	<p>山、里、海が両面にある半島の特性を各分野に活用する総括司令塔の設置 お客さんを都市の親戚や知人と同様に扱う農宿、林宿、漁宿 日本の真中、半島米としてのヘソヒカリと地酒 風、水、波、太陽光発電等の環境半島を 風、光、砂、温泉の福祉施設、王国丹後 内湾、外湾、史跡を生かした、新しい観光スポーツ施設を提案する。</p>	
	<p>丹後半島の縦貫道沿いに、本格的なトレッキングコースをつくり、自然・観光(宿泊施設・雇用・地場産業)事業とする。 水産分野の作業は、専門的な技能が必要。すぐに必要な技能を取得できる短期の養成機関をつくり、水産関係の雇用を支援する。 防災面で、地域からの要望による危険箇所総点検を実施し、その把握と対応指示をする。</p>	
	<p>日本政治、文化史上、古代最高峰の羽衣伝説・浦島伝説・徐福伝説等を保有しながら、その具体的施設が神社以外にはないのは淋しい。今後の海外からのインバウンド客も視野に入れて、古代丹後のイメージがよく分かり、納得できるこれらの3大伝説が関連する史跡楼閣の建造と、それらを合理的に繋げる新たな観光道路(災害時の緊急道路兼用)も併設することを提言</p>	

する。史跡楼閣は、羽衣館、竜宮城（徐福伝説から）、常世館（丹後＝海人王国から）、海王城の四館で、いずれも景勝地に建造し、路花・並木付きの修景道路で繋ぐことを提案する。

織物について、手織で高齢者でも手伝いの出来る裂き織り（さっこり）が出来ると面白いと思う。
峰山方面で、観光客に、漁業、農業、林業で活躍した「はんてん」も夏は涼しく冬暖かく、流行すると良いと思う。

すべてにおいて、具体的将来像を明確にし、誰が、いつ、何を、なぜ、どこでどのように進めていくかを夢であっても描き、そのための何を京都府が協力できるのかを知らせて頂ければ、若い世代に夢と実行する機会が与えられると思う。

観光分野については、地域社会よりも顧客の立場に立った整備が必要である。情報ばかり発信しても顧客が満足してもらえないと、結果として続かないと思う。

農業分野について、底辺での活動を見ずに、行政主導だけで継続性のある事業ができるのだろうか。農業は今までサービス活動ができない状態で続いてきたので、将来の農業像を提案していただきたいと思う。それがないと次世代の担い手は育たない。

織物分野については、現在、デザイン力はあると思うが、商品開発力がないのではないか。消費者は素材を買うのではなく商品（デザイン・色・形）を購入するわけで、小さくとも商品開発ができる環境を作る必要がある。

丹後半島の観光や産業を考える場合、隣接する兵庫県北部との連携を視野に入れてはどうか。例えば、城崎温泉での湯治と丹後ちりめんの見学、天橋立や成相寺参拝を加えた旅行を最近流行の「癒しツアー」として売り出してはどうか。

丹後地方と兵庫県北部で商談会を開いたり、大震災が発生したときの相互援助協定なども締結してはどうか。

丹後の隣接地である兵庫県豊岡市は、鞆の生産を地場産業としている。そこで豊岡の鞆製造技術と丹後のちりめん製造技術を合体させ、高級丹後縮緬で装飾した独自の鞆を開発、製造し、ブランド品として各地で販売してはどうか。値段は高くなるだろうが、京都府と兵庫県で協力して販路を開拓すればかなりの売上が見込めると思う。府県の枠を取り払って物事を考えることも必要である。但・丹連合（但馬と丹後の連合）形成を提唱したい。

丹後地方は歴史的に日本海対岸の朝鮮半島、中国東北地方、ロシア沿海地方と関係が深い。そこで中丹振興局や地元市町とも協力して、「京都日本海対岸交流の船」とでも呼ぶべきものを京都府北部とこれらの地方や国家の間に就航させて、京都府民とこれらの国の人たちとの間の様々な交流を促進してはどうか。観光客の誘致やこれらの国の企業の丹後半島への投資にもつながると思う。

ご意見に留意して、地域づくりを進めてまいります。

兵庫県北部との連携は、大変重要であると考えています。これまで協議会等を通じて意見交換を行っておりますが、ご意見のように更に効果的な方法も検討していきたいと思っております。なお、「観光レクリエーション分野」で、1の趣旨を記述しています。

日本海沿岸地方との交流では、舞鶴港を拠点とした対岸貿易の拡充を推進してきておりますが、ご提案は今後の参考とさせていただきます。

観光・レクリエーション	<p>日本海又は久美浜湾に小さな人工島を作る（展望、レストラン）、地方の産物（農水産他）の一大市場を作り京阪神の客を招く、いわゆる、観光客を招くため海を利用する、産物を安買に提供する施設をつくる。</p>	
	<p>丹後の観光紹介を兼ねたスタンプラリー的な行事はどうか。A)自然コース 浦島伝説、七夕伝説等、伝統民話を訪ねるコース、古墳を訪ねるコース、B)自然科学コース 半島海岸美探索コース、さんしよ魚等生物探索コース、溪谷美探索コース、巨木等植栽探索コースC)歴史的建造物コース 社寺探索コース(時代別)、旧家探索コース、D)インフラ整備コース(福祉施策見学コース)</p>	<p>ご提案は、今後の参考にいたします。また、プランの巻末の「アイデア集」に収録し、地域の皆さんに紹介させていただきます。</p>
	<p>観光レクリエーション分野で、中核となる活動体の形成とエキスパートの育成の必要性の記述については大きく評価したいが、どこで、どのように行うかが課題。「観光大学」に既存施設を位置付け、プロの講師陣を配置し、観光関連の従事者を系統的、実践的教育を進める体制を確立すればどうか。(丹後あじわいの郷も1つの候補施設である)</p> <p>丹後広域観光キャンペーン協議会を中心に、丹後を全国に発信しているが、より系統的な情報発信の企画を行うためには、それぞれの観光施設のイベント情報等を集約し、組み立てる「丹後観光情報センター」(仮称)の設置を提案する。</p> <p>四季の魅力ある観光地を育成するためには、「花」の位置付けと育成が重要と思われる。丹後あじわいの郷では、「花はな祭」をはじめ、花のある公園づくりを進めており、丹後を花のある美しい地域として打ち出すことが重要。</p>	
	<p>ふるさとのことを懐かしく思い巡らせながら読んだ。昔、学生時代に味土野のガラシャ夫人隠棲の地に行ったことを思い出した。「観光・レクリエーション分野」に細川ガラシャ夫人隠棲の碑のことが無いのが残念。</p>	<p>このプランは、具体的な取組の基礎となる丹後に関わる主要な分野の今後の活動方を提示しているものです。ご意見には留意してまいります。</p>
	<p>2005年NHK放映の大河ドラマ(義経)が日本全国に発信されており、義経と静が終の別れをしたと言われる京丹後市網野町磯地内は、今も静の出生地として静神社を建立し敬っている。この静神社へ通ずる道路は、観光バスも通行できない状態である。網野～塩江間の府道を広域的に整備し、風光明媚な海岸線を京丹後市と観光スポットとしてアピールしてほしい。</p>	<p>静神社に至る海岸部の道路整備を逐次進めており、京丹後市と連携してアピールしていくこととしております。</p>
	<p>世界的な観光の爆発が10年後と言われ、特に欧米からアジアへの流れが中心となるようだが、東南アジアや中国までで日本は入らないかもしれないと言われている。その理由は日本の観光立国としての認識の低さ、準備不足(宿の施設、言語、標識や案内体制等)からのようである。しかし、外国の人の日本、その中でも歴史ある関西へのあこがれは強いものがあり、入込客の対象を中国や諸外国に広げれば大きな可能性が生まれる。但馬では、商社を退職した人などで中国との連携を考えているグループがあるようで、行政レベルでも兵庫北部と観光での連携組織を作り、基盤整備</p>	<p>海外からの観光客を呼び込むことは、丹後にとりましても重要です。丹後広域観光キャンペーン協議会や各市町等と連携して取り組んでいくこととしております。</p> <p>ご提案は、今後の参考にいたします。また、プランの巻末の「アイ</p>

	<p>や広報活動を行ってはどうか。広く眺めれば丹後・但馬の区別はないと思う。</p> <p>自然・歴史・文化・地場産業・芸術について、歩き、回遊することによって、鑑賞したり、体験できる「文化的芸術的エリア」(町並みでも、産業地帯でもよい)として整備し、併せて経済効果も生み出せるような場が、豊かで深みのある観光地になるためには、いくつかが必要だと思う。地元住民がまず考え方・ソフトを提案しなければならないと思う。</p> <p>丹後半島の成り立ちについて、昨秋、大宮のふれあい工房で行われた展示で、久美浜湾と酷似した地形が網野と間人に埋もれていることを発見した。水をたたえている頃はほとんど同じ景色だったのかもしれないが、同じ半島ゆえ条件が似ているのか、天橋立を入れて4カ所も砂嘴が形成されたことは、海流も含め面白い学習材料になるのではないか。専門家にまとめて提示してもらえば、いろいろな人に興味を持ってもらえるのではないかと思う。</p>	<p>「デア集」に収録し、地域の皆さんに紹介させていただきます。</p>
<p>農林水産業</p>	<p>食育基本法が制定される中、食育の推進が重要となっている。丹後あじわいの郷では、周辺農地活用による農業体験から調理、農産加工体験ができる施設を有しており、丹後あじわいの郷を食育推進の拠点施設として位置付け、体制を整えて具体的な推進を行うことが機能向上の一つとして考えられる。</p> <p>丹後の土地(840km²)の76.8%は森林、この広大な森林を有効活用することが自然を生かした循環型社会を作る基本になる。離村により放置され荒廃している山林の整備を、特に里山の活用という点で、市・町毎に具体的に年度計画を立て実行する。その計画を森林組合が受け、地域毎に作業道、歩道を整備しながら放置森林を整備する。広い範囲から参加を促し、多くの人に森林の公益的な役割を理解してもらい、併せて地球温暖化防止の活動の場を提供することにより、山村地域の住民と都市住民の交流を深め、山村地域を元気にする。</p> <p>有害鳥獣に苦しんでいる。動物愛護を言う人もいるが、農業者にとっては天敵であり、生活が侵されている。</p>	<p>ご提案は、今後の参考にいたします。また、プランの巻末の「アイデア集」に収録し、地域の皆さんに紹介させていただきます。</p> <p>今後、更に力を入れて、人と野生動物が棲み分けできる環境整備を進めていくこととしております。</p>
<p>織物、機械、金属等地域産業</p>	<p>丹後ちりめんに新しい光を当て、着物以外の様々な製品を作り、全国に宣伝すべき。特に今中国には「富裕層」と言われるお金持ち階級が数千万人の単位で出現しており、日本製のものを高級品として購入している。ちりめん製のチャイナドレスなどの独自の服飾をこれらの「富裕層」に輸出することを考えてはどうか。</p> <p>ちりめん素材の海外展開は一考を要する。強撚糸織物(小幅、絹素材)の風合いは、日本の風土に育まれて来たものであり、和装の究極の素材として特化されてきた。これを単に幅を広げるとか、目付きを落とすとかにより海外市場を意識するのは危険。過去にも洋装素材として海外展示会に出品しバイヤーに見せて来たが、強撚糸でなければならぬ説明が出来ず、コストパフォーマンスを訴える合理性が見つからなかった。</p>	<p>ご提案は、今後の参考にいたします。また、プランの巻末の「アイデア集」に収録し、地域の皆さんに紹介させていただきます。</p> <p>丹後が得意とする絹織物等の分野で、海外の需要・技術動向を知り、それを取り込んでいくことは、丹後にとっても、重要な課題であると思います。ご意見に留意して、地域づ</p>

	<p>衣類としての用途展開は難しく、素材の面白さで訴えるべきかと思う。</p> <p>単なるシルク素材ではコスト的に太刀打ちできず、国内でも難しい。素材メーカーは量をさばいていくらかの世界である。また地場産業はある程度の生産スケールを持たないと成り立たない。</p> <p>呉服の業界が衰退したのはいろいろな要因があるが、価格の問題が大きい。金額の高いフォーマルに目がいき、着物ファンを無視した価格が結果的に市場を小さくしてきた。利益率だけを求め、種蒔き水やりを怠ってきた結果が今日である。和装産業もこれからはファッション要素抜きには語れない。スピード化を要求される。フォーマル市場に限界を来している現状で、裾野を広げるカジュアル素材へのシフトが必要。従来の流通構造から脱して川上と川下が連携し、情報交換しながら商品企画、ものづくりする時代に入った。今後の行政の対応として、より以上に商品企画、デザイン、MD等ソフト面での支援が期待される。</p> <p>近年、京都市内などで盛んに着物に係るイベント・コンサート、パーティ、園遊など着物シーンの演出が盛んである。ただ着物に対するイメージの定着は駄目で、着物へのハードルを高くするだけ。インフォーマルなシーン作りの仕掛けが必要。京都での経費の一部でもよいので、是非丹後にもそんな仕掛け作りを願いたい。</p>	<p>くりを進めてまいります。</p>
<p>生活・地域づくり</p>	<p>定年退職者に原則無報酬で、ボランティア活動等の行事全てに参加させる。お金は出しても口は出さない市政を。お年寄りとお小・中学生の交流を授業の一環としてでも行う。KTR・丹海バスへの補助金など無駄を廃止する。</p> <p>入湯料の割引を行い、老若男女の行動力を助け、それにより丹後地域の活性化をはかる。</p>	<p>ご提案は、今後の参考にいたします。また、プランの巻末の「アイデア集」に収録し、地域の皆さんに紹介させていただきます。</p>
	<p>子供達も大きくなり、故郷について振り返るとき、どれだけ丹後の良さを教えることができたかと反省している。地域活動の結びつきや地域理解など、もう少し、しっかりと我が子にも教えるべきだったと思う。このプランが進んでいく上で、地元の子供達にそういうことをしっかり教えていく「教育」の分野を大切に、学校を中心にそういう学びを入れていく必要があると思う。何を進めるにしても「人を育てる」ことは、基本的に大切だと思う。</p> <p>交通もそう不便ではないが、文明の利器の恩典に恵まれていない。携帯電話がほとんど受発信出来ない。病院へ行く市バスの停留所は無い。(以前から通学バスも通っていない)台風23号の時には2日間停電し、電話も不通で外部と連絡もとれなかった。これらの小さな実情にも気を配ってほしい。</p> <p>定住人口の確保という点で、丹後に住むと安心(福利厚生面)、安価(暮らしの諸経費)であり、「住むなら丹後」と言えるようになればいいと思う。特に周辺地域では若者が住めるような住宅がもっとほしい。久美浜などでは、住宅不足から豊岡などに部屋を借りるケースが多いようである。</p>	<p>ご意見に留意して、地域づくりを進めてまいります。</p>

	<p>丹後半島のものすごい季節風を生かして、風力発電を今以上に大幅に拡大し、余った電気は水素の形にして蓄えておく。家庭用燃料電池を各家庭に備え、その水素で必要なときに稼働させる。そうして「エコエネルギーの郷、丹後」として発展戦略を練るべきである。青森県の下北半島では太鼓山よりも遙かに規模の大きな風力発電を行っている。参考にすべきだ。</p>	<p>風力発電については、平成17年度から、新たな支援制度（うみかぜ風力エネルギー普及モデル事業）を設けました。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
	<p>地域の活性化のためには、次世代となる子供達の育成が最も重要な課題の1つ。具体的には、地元の安全な農水産物を給食の材料に多く取り入れること（地産地消の考え）、地元の木材を学校や公共施設などに多用すること（シックハウスの防止）など、子供達の健康と地元とのつながりをより深めることが、大切。継続可能な循環型社会の考え方を先んじて取り入れて、より進んだ地域づくりを目指してほしい。</p>	<p>活動方策の「農林水産業」、「生活・地域づくり分野」等で、ご意見の趣旨に触れており、具体策については、今後の参考にさせていただきます。</p>
	<p>高齢者は、食べ物を粗食でよいと考えておられる人が多い。民間の業者が最低でも、一ヶ月に一度の何らかの聞き込みするなどの必要性はあると考える。行政は何らかのバックアップをするという考えも必要。</p>	<p>高齢者の食事の確保は大切であり、各地域で配食サービスも行われています。ご意見のように、行政・民間が協力して進めていく必要があると考えています。</p>
	<p>台風23号で自分の田圃が2反半流失し、土砂、岩石が山積となりその量は、莫大なものとなっている。堤防が決壊し、農道は仮復旧のみで、災害復旧の早期完了について、現場の杭打ちだけでは安心できない。やる姿勢、取組を示してほしい。今年は田植えが出来ない。</p>	<p>早期の復旧に向けて、各市町とともに、最優先で取り組んでいるところです。</p>
	<p>生ゴミ1tを焼却処理するのに石油49%必要であるが、処理してメタンガスを発生させると石油43%分のエネルギーが生まれ、差引100%近い差が出るという。このようなプラントの建設によって丹後の環境イメージの向上と、雇用拡大、さらに廃油の再利用プロジェクト等、CO2削減への貢献が期待できる。ガス発生後のゴミも肥料化すれば、捨てることはないようで、丹後の農業にも役立ち、クリーンなイメージも高まる。</p> <p>風力発電施設が、丹後の海岸線に数基設置されると聞いている。久美浜湾東岸の浦明地区あたりは平地だが、日本海からの妨げがないので、かなりの風が年中吹いている。さらに箱石浜あたりにも設置が可能なら、古代と現代の融和とか、兜山の山頂からの風景という面でも豊かなものになると思う。要望の声を上げることが出来ないかと思うが、府としても検討できないか。</p> <p>クリーンエネルギーの実験、稼働に、久美浜も環境のエリアという観点で参加させてほしいと思う。</p>	<p>生ゴミの活用については、ご意見の趣旨に添うプロジェクト（京都エコエネルギープロジェクト）を京丹後市等と連携して、弥栄町で推進しているところです。また、風力発電については、平成17年度から、新たな支援制度（うみかぜ風力エネルギー普及モデル事業）を設けましたので、活用いただきたいと思います。</p>
<p>基盤整備</p>	<p>このプランは、各分野にわたって展開されているが、丹後を結んでいるKTRのことが一行もない。KTRは民間といえ第3セクターで毎年の損失は各市町が負担している。鉄道を利用しない地域や人にとっては関心がないが、存続は大変重要な問題である。このまま廃線になればみんなも動くかもしれないが、コスト的</p>	<p>北近畿タンゴ鉄道につきましては、「5各分野を支える基礎条件」の中で、その役割を拡げる取組を支援することを記述していま</p>

<p>にも将来電化は必要。「持株会社システム」で全地域に働きかけ、電化資金を生み出せば、丹後はいろいろな発展が考えられると確信している。</p>	<p>す。ご意見は参考にさせていただきます。</p>
<p>内容としては、すべての人の意見を上手くまとめてあると思うが、現実としては、すべてを実現するのは不可能と思う。例えば、最初の方に、「人々を魅了して止まない海と山と集落、これらが一体となって構成する景観」とあり、丹後にあるもの「豊かな自然、歴史、文化、温泉」などを活かしていくというような方針が書かれているが、後ろの方には「道路開発」等、景観を崩し、自然と共存し得ない内容が書かれている。京都議定書のこと考えると、京都府（京丹後）は、どのような行動をとるべきかは、自ずと明らかかなような気がする。</p>	<p>地域内外の交流を支え、活発にする基盤として、道路等の整備は、重要な施策となります。これと自然の保護あるいは環境の保全は、政策的にすべて二者択一の関係にあるのではなく、それぞれの条件を十分点検し、情報を開示して、地域との意見交換を行い、決定していくことが大切であると考えています。</p>